

富士紀行（５） 須走の名所旧跡等の紹介

須走は霧の街である。梅雨の頃は一体が深い霧に包まれ、さながら須走の住人は霧を食べる仙人に化する。

さて、須走の名所旧跡について紹介しよう。

① 富士浅間神社（既述）

② 伊奈神社（後述）

③ （フレデリック・）スター博士の碑（1958年9月アメリカ生～

シカゴ大学名誉教授の博士は、アイヌ研究のため明治37年から30年間に15回来日。日本をこよなく愛し、特に富士山にあこがれ、5回富士登山をした。アメリカ初の日本学講座を開くと共に、日本の山岳信仰や民間信仰に興味を持ち、5ツ星紋の羽織と仙台平の袴に白足袋を履き、「寿多有」のお札を持って全国の神社仏閣の行脚を行い（お札博士と呼ばれた）、75歳で没した。没後、博士の遺言「富士山の見えるところで眠りたい」の遺志を汲み、生前博士が愛した須走の地に納骨され、碑が建てられ、現在では、東富士5湖道路開設に伴い若干移動したものの、須走IC横に記念碑が建立されている。

④ 藤原光親卿の墓（承久の役殉難5卿の1人）

承久の変（承久3年）の時、後鳥羽上皇の北条氏討伐の企てに際し、権中納言藤原光親卿は時期尚早を上奏したが、聞き入れられず、義時追悼の院宣を書いた。謀議はいち早く鎌倉に漏れ、謀議に参加した5卿は補われ、光親卿は、関東の御家人甲斐の武田五郎信光に預けられた。鎌倉護送の途中加古坂（籠坂峠）において斬首された。享年46歳。明治20年旧須走村の有志が集まり、卿の遺跡の覆滅するのを恐れ、許可を得て、一基の碑を建立した。斬首の地はその碑から300ほど峠寄りである。

石碑名「按察使権中納言藤原光親卿塚」。毎年5月慰霊祭が行われる。

*承久の変

1221年(承久3)後鳥羽上皇とその近臣たちが鎌倉幕府討滅の兵を挙げ、逆に幕府軍に大敗、鎮圧された事件。

⑤ 富士学校資料館

須走の名所として忘れてならないのが、陸上自衛隊富士学校の資料館である。年間見学者は優に8,000人を上回り、須走を経由する観光バスのルートとなっている。（旭川駐屯地の北鎮館も観光バスのルートとなっているが、それと同じである。）内部は、旧軍コーナー、自衛隊コーナー、富士学校コーナーに分かれている。旧軍コーナーには主として富士学校に入校する学生と同等の階級の旧軍人の遺品約400点が納められている。その多くは寄贈を受けたものか、或いは御遺族の御厚意でお預かりしているものである。

特筆すべきものとしては、明治天皇や大山巖元帥御着用の大礼服、同元帥の遺品そして旧軍の各種勲章であろうか。

自衛隊関係の資料は現在に至る自衛隊の歴史が大観できる如く、資料約200点で構成されている。学校コーナーでは、陸上自衛隊や富士学校の広報VTRを楽しめる。

見学者には学校の広報班員が懇切・丁寧の説明し、好評を博している。

見学希望者は、50550-75-2311 EXT:2211 広報班まで（平日0900～1600のみ開館）

⑥ 大日堂（旧須走村木根坂凸凹の自衛隊東富士演習場内にある。）

富士浅間神社の山内末社の一つに野中神社があり、人々の間では大日堂という名で親しまれ、信仰を集めていた。祭神は大日要命（大日如来）で、本殿、拝殿あわせて間口二間奥行き二間二尺、それに四間と二間の籠舎がついていたと伝えられている。

この古い大日堂は富士山の伏流水が湧き出ている水源地にあり、今日ではこれらの建物はないが、昭和五四年から小さな石の祠がまつられている。水源地に祀られていることで、雨乞いの神として旧北郷村の村々の信仰を集めた。祭礼は、9月8日近辺の日曜日に、須走の区長会（須走は、上本町、下本町、下原、緑が丘、ひばりヶ丘、滝の台、東原の7区で構成され、それぞれの区に区長がおかれている。7人の区長の中から、区長会長を選び、区長会長が須走の代表者になる。）が主催する。

⑦ 夕月の碑

籠坂峠に至る2番目の大曲にある俳人原田浜人氏の句「籠坂の月代遅し谷の虫」を称える句碑である。碑面には本人の手で、句が、碑陰には武者小路実篤の筆で彼を称えている。彼は浜松原島の人で県下中学校で教鞭をとる傍ら、俳諧を志した。同人有志により、昭和35年句碑が建立された。

⑧ 富士山を背景に翩翩と翻る日章旗

富士五湖道路上から富士山方向を眺めると青い富士山をバックに日章旗が翻っているのが目を引く。名にしおう渋滞路線である一三八号線の渋滞緩和のため設けられた東富士五湖道路から見える日章旗は富士学校体育館前（即ち正門から直線の位置）に陸自創隊五〇周年を記念して建てられた国旗掲揚塔であり、平日・日曜・祝日を問わず、日本を代表する富士山と国旗が問わず渾然一体となり、一幅の絵になっている。須走を通過する皆さんがその絵に感動して、国に思いを馳せていただければ望外の幸甚である。